

制作を成立させているものを顧みる

絡まり・偶然・交雑性からアートを考える



「せんと、らせんと」の6人のアーティスト、4人のキュレーター」のために作成したダイアグラム
「絡まり・偶然・交雑性」 飯岡陸

2022年2月17日(木) 15:30 - 16:20 レクチャー

※レクチャー参加申込は2/13(日)まで



16:30 - 18:00 ワークショップ

※ワークショップは先着10名まで(聴講は人数制限なし)
ワークショップ参加希望の方は左下の事前課題をご確認ください。

秋田公立美術大学学生・関係者を対象にZOOM配信

制作 = 作品は独立して存在しているのではなく、さまざまな文化的背景、美術史的影響関係や物理的な条件のうえに成り立っているはずです。現代において、その「絡みあい」をどのように考えることができるのでしょうか？ 短いレクチャーと参加者が用意したダイアグラムを使ったワークショップを通して考えてみたいと思います。

ワークショップ参加希望者は右のQRコードより課題内容を確認のうえ、2月13日(日)までに事前課題(ダイアグラム)を mukousangenryodonari@gmail.com までご提出ください。



キュレーター、森美術館勤務
飯岡陸 / Riku Iioka

1992年生まれ。アーティストと共に考えること、実践としての倫理に関心を寄せる。主な企画展に、2016年「新しいループ・ゴールドバーグ・マシーン」(KAYOKOYUKI・駒込倉庫、東京)、「渡邊庸平：猫の肌理、雲が裏返る光」(駒込倉庫、東京)、19年「凍りつく窓：生活と芸術」(CAGE GALLERY、東京)、21年「せんと、らせんと、6人のアーティスト、4人のキュレーター」(札幌大通地下ギャラリー500m 美術館、四方幸子、柴田尚、長谷川新との共同キュレーション)。『美術手帖』WEB版にて20-21年の展覧会レビューを担当したほか、本誌22年2月号「ケアの思想とアート」特集に小論「批評としての《ケア》」を寄稿。